

# 奏であう人

vol.87



ガイドネーム  
あお まこと  
**青い誠人**さん(山形市)

1990年埼玉県生まれ、山形市在住。旅行系の専門学校を卒業後、旅行会社に就職し、営業兼添乗員として経験を積む。2016年に山形県へ移住し、天童市の温泉旅館に勤務。広報業務の傍ら、2017年より(株)DMC天童温泉でツアー企画やガイドを兼務し、2021年からは専属として活動。天童温泉への誘客に力を注いでいる。



銀山温泉や樹氷といった人気観光地に加え、盆栽や紅餅づくりなど、地域に根ざした体験型ツアーを企画する青い誠人さん。天童温泉を起点に、山寺や周辺エリアも含めた地域全体の魅力発信と誘客につなげている。

## 訪れて知る、受け継がれる風景

天童温泉を起点に山形ならではの体験型ツアーの企画に携わる青い誠人さんと、山形の自然や精神文化を軸にさまざまな旅の体験を届ける赤い康平さんに、受け継がれてきた風景や営みを未来へつないでいく方策についてお聞きしました。



ガイドネーム  
あか こうへい  
**赤い康平**さん(山形市)

1979年東京都生まれ、山形市在住。広告代理店を経て渡米し、日本の地域の魅力を外国人に伝える体験を創造する仕事に就く。山形の精神文化体験を海外に伝える事業に携わり、山形の文化体験や人々に感銘を受け、米国から帰国、本県へ移住。現在は山形を拠点に、日本各地の自然体験、旅の体験コーディネート、来日外国人へのアテンドを行う。



山伏修行を通して山形の精神文化、自然に身をおき祈る体験をきっかけに移住した赤い康平さん。山形に根づく精神文化、自然の恵に感謝する体験こそ、山形ならではの魅力があると感じ、体験者や旅行者に伝えている。(右から2人目)

### 人との出会いが山形へ導く

「広告代理店を退社し、独立後に最初に携わったのが山形の精神文化を海外に伝える事業でした。」と、康平さんが話しはじめます。

「自分が知らないものは伝えられないと、まずは山形へ来ました」。

山伏修行で山中に身をおき祈り、自然に感謝する体験。それが康平さんの人生を大きく変えたと言います。「山形の魅力ある人との出会いが、山形の自然をさらに知り、伝えたいと思うきっかけとなり、米国から山形へ移住しました。現在は山伏修行や自然体験のガイドをしています」。

一方、誠人さんの原点は高校時代の東南アジア一人旅にありました。「異文化に触れることで、視野が大きく広がりました。その経験をきっかけに旅行業界へ興味を持ち、旅行会社へ就職。その後、妻の故郷である山形へ移住し、天童温泉で旅行に関わる仕事に携わっています」。現在はDMC天童温泉で、ツアー造成などを行っています。

「天童温泉にお泊まりいただきました

めには、滞在拠点としての魅力や、ここでしか体験できないコトが必要です。そのため、天童を起点に山寺や銀山温泉など、各地を結ぶ山形ならではの体験型ツアーを企画していきます」。さらに誠人さんは続けます。「〝人〞は旅の重要なポイントです。素晴らしい景色や食べ物があっても、それだけでは、また来たい」という理由にはなりにくい。地域の人と過ごした時間や体験が、何度も訪れたいという気持ちにつながると感じています」。

康平さんもまた、地域に根付いた体験の重要性を語ります。

「海外の人は、その地域だからこそこできる体験や出会いを求め来日しています。私がガイドをするのは、山伏修行や山菜料理の出羽屋など、長年受け継がれてきた自然文化体験の場と地域の人との出会いです」。

### 価値を知り、守り受け継ぐ

「山形の魅力は、空気だと思っています。新鮮なおいしい空気はもちろんのこと、人々が作り出す空気感も素晴らしい。その象徴が、今も残る物々

交換の文化。豊かな暮らしが根付いていると感じています。」と誠人さんが微笑みます。

康平さんは、うなずきながら移住した当初の驚きを振り返ります。

「誠人さんと同じで物々交換は新鮮でした。近所の方同士で、日々、野菜や果物を自然に分けあう。その暮らしはすごく豊かだと感じます。貨幣価値では表せない山形の方のあたたかい心が、昔からの文化として続いているのではないのでしょうか」。

新しいものをつくるより、今ある価値を知り、守っていくべきではないかとお二人は語ります。

「地域の風景や文化など、地元の人ほどその価値を当たり前に感じしてしまうと思います。」と誠人さん。

「入山料や駐車場代など、訪問者から料金をいただき、地域の自然文化の維持に貢献していくことが重要だと思っています。」と康平さんも続けます。

価値の継承が山形の魅力を未来へとつないでいくと話すお二人の言葉には、この土地とともに歩む強い思いが込められていました。

